

岡山県在住外国人生活状況調査 設計 素案	
調査概要	
調査時期	H21年7月～8月
調査目的	県の多文化共生施策の基礎資料とするため
対象	県全域の外国人登録者(20歳以上)
対象者数	2000程度
抽出方法	国籍、地域性を考慮し無作為抽出(市町村に依頼)
有効回答	500以上(目標)
設問数	60程度→50程度
調査票頁数	12頁程度
調査票の言語	日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、タガログ語
調査項目	
1 基本属性	性別
	年齢
	国籍
	在留資格
	日本滞在期間
	岡山県での滞在期間
	居住地
	来日前の日本滞在予定
	今後の滞在予定
	世帯構成
	出身国及び日本での学歴
2 日本語等	日本語の能力(話す、聞く、読む、書く)
	日本語の学習状況
	日本語の学習方法
	学習しない理由
	日本語以外の言語
3 仕事	仕事の有無
	働かない理由
	現在の仕事の内容
	雇用形態
	仕事の見つけ方
	仕事で不満に思うこと
	母国での仕事
4 子育て・教育	子どもの年齢
	子育ての方法
	育児で困った(困っている)こと
	通学の状況
	学校に期待すること
	学校に通わせない理由
	子どもの教育で心配すること

5 住居	現在の住まいの形態
	住居に関して困ったこと
6 医療・保険	国民健康保険、年金、雇用保険への加入状況
	→ 加入しない理由
	けがや病気の時どうするか → 病院へ行かない理由
7 自動車運転	自動車運転免許の有無
	免許証の取得(切替)で困ったこと
8 防災	災害発生時の情報入手先
	防災情報の認知度
9 生活情報	生活情報の情報源
	情報の充足度
	充実してほしい公的情報
10 困りごと・相談	困っていることや不安なこと
	困ったときの相談先
	日本人とのトラブルの原因
	→トラブル時の対応
	人権に関すること
11 行政サービス	国際交流センターの利用状況
	→ 利用形態
	国際交流センターへの要望
	各種行政サービスの認知度
12 地域社会	地域で参加している活動
	活動に参加しやすくなる方法
	普段の付き合いの範囲
	地域社会に貢献できること
13 その他	在住外国人の意見の反映方法
	生活環境の変化(昨年との比較) … 収入、仕事ほか
	岡山県の国際化施策への意見
	岡山県の魅力
	自由意見